



ヒロシマの 心を運ぶ路面電車

広島市民の足として愛される路面電車、ヒロデン。
広島市立千田小学校では、慣れ親しんできた旧型車両が
ミャンマーに送られたことをきっかけに、
世界との関わり方について考える授業が始まった。

最新鋭の車両ではなく 「お古」を送るのはなぜ？

「ヒロデンは単に広島市民の足という
だけでなく、原爆被害からの復興のシン
ボルでもあるのです」。千田小学校の庄
野英憲校長は、そう説明する。原爆が広
島市内を焼き尽くしてから3日後には一
部の運行を再開したヒロデンの逸話は、
「75年間は草木も生えない」と言われた
惨劇から奇跡的な復興を遂げた広島市の
歴史を象徴するエピソードとして、語り
継がれている。広島市の小学校では、3、

4年生で必ず学ぶ話でもある。
「町が破壊されただけでなく、戦後は
原爆症や被爆者への偏見もありました。
そうした中で市民が団結したことが、今
の広島につながっています」。そう語る
庄野校長は、子どもたちが世界を考える
ときに、遠いよその国で起きている、ひ
とごと、としてではなく、自分とつなが
っている、わがごと、として捉えられる
ようにと、「国際教育」の授業について
他の先生たちと一緒に題材を探してき
た。

現在のヒロデンは、自社車両のほか、

国内外のさまざまな路面電車の中古車両
を走らせていることから「路面電車の博
物館」とも呼ばれている。今回譲渡され
た3両のうち、1950年製造の1両は
大阪から、1963年製造の2両は福岡
から広島に移ってきたものだ。広島市の復
興を支えて50年以上も走ってきた「お古」
の車両を、今、なぜ海外に送るのか。6
年生の「国際学習」の授業は、そこから
始まった。

どうせ送るなら、最新鋭の車両を送っ

た方が喜ばれるし、日本の技術の高さを
知ってもらう機会になるのでは。そんな
疑問を手掛かりに、千田小学校の6年生
はミャンマーの歴史や、鉄道などインフ
ラの状態について学んだ。あえて古い車
両をミャンマーに送るのは、市内交通の
運営経験が浅く、最新鋭車両の運用体制
が整っていないミャンマーにとっては、
部品交換などのメンテナンスがしやす
く、使いやすいからだ。また、広島電鉄
では技術者を現地に派遣したり、ミャン



[上]なぜ古い車両を送るのかを知るために、ミャンマーの状況を学ぶ
[右下]カーブの野球指導はスリランカの平和のためになるか、それぞれの考えをもとに議論した
[左下]授業の最後には、日本から、広島からどんな協力や発信ができるのかを考えた

朝、線路を横切って登校する子どもたち。ヒロデンはとても身近な存在だ



マール国鉄職員の研修を受け入れたりする
など、人の交流も積極的に進んでいる。
こうした実情は子どもたちにとっても目
からうろこが落ちる内容で、10時間の「国
際学習」の中で一番面白かったと答える
児童もいた。

庄野校長は、授業に向けた調査の中で、
国際協力の在り方が変わっていくのでは
ないかと感じた。「新しいもの、お金の
掛かるものを贈るのではなく、私たちが
大切にしてきたものを、また大切に使っ
てもらおう。そういう心の交流が、これか
らの国際協力では大切になってくるので
はないかと思えます」と強調する。

ヒロシマの心をつなぐ 新しい時代の協力へ

授業を担当したのは、6年生の担任を
している徳山実苗先生、福島泰治先生、
内田友和先生の3人だ。内田先生は、「6
年生の国際学習のテーマは、世界の平和
と日本の役割」です。子どもたちの身近
にあるものから国際協力を考えられる授
業にしたいと思い、材料を探しているこ
とに、ヒロデン車両の譲渡のニュースが
耳に入りました」と振り返る。

国際学習では他にも、プロ野球の広島
東洋カープがJICAと協力し、内戦を
経験したスリランカで野球を通して復興
を後押ししている話題も紹介。「野球は
スリランカの人々の願いに応えられるか」
をテーマに調べたり、議論を深めたりし
た。「設立当初の資金難を乗り越え、市
民球団として定着したカープは、ヒロデ
ンと同様に市民を力づけてきた広島市の

ンボルです。ヒロデンやカープを通して、
スリランカの人々の復興への意欲や相互
理解などの、心の支援」の大切さや、自
分たちが国際協力を担う一員であるとい
うことに気付いてほしいと思いました。
その上で、平和都市・広島が世界のため
にできることを考えてもらいたいんで
す」と、内田先生は強調する。

広島ならではの国際協力を取り上げた
この授業。千田小学校では、これからも
毎年、ヒロデンとミャンマー、カープと
スリランカの協力を
追いかけて、身近な国
際協力について考え
ていく予定だ。



平和への思いを発信する原爆ドーム。平和記念
公園には、海外からも多くの訪問者がある

厳島神社と原爆ド
ーム、二つの世界遺
産を持つ広島市は、
日本の都市の中でも
世界的に知名度が高
い町のひとつだ。戦
火からの復興を遂げ
た町として、また、
平和へのメッセージ
を発信する町として、世界が広島に大き
な期待を寄せている。子どもたちがその
ことを感じ、世界を身近に感じるよう
になれば、国際協力に向かう意識も変わ
って行くだろうと、先生たちは期待してい
る。

原爆ドームと、それを取り囲む平和記
念公園には、海外からの観光客の姿も
目立つ。ヒロシマは世界とつながってい
る——その自覚が、世界に羽ばたく人材
を育てていく。